ていよう '19 **1 1** あなたが創る生協の書評誌



#### 話題の本棚

ミシェル・ウエルベック著、関口涼子訳『セロトニン』 藤原辰史著『分解の哲学――腐敗と発酵をめぐる思考――』

#### 特集/酒

新刊コーナー/新書コーナー/私の本棚

〒606-8316

京都市左京区吉田二本松町 吉田南生協会館2階

Tel:771-6211 / E-mail:teiyo@s-coop.net

綴葉HP: http://www.s-coop.net/about\_seikyo/public\_relations/

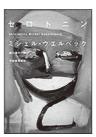


**♥ UNIV.** 京大生協 CO-OP 綴葉編集委員会

# 救われない物語に救われる時代に……

## セロトニン

河出書房新社 関口涼子訳



陸鬱な社会の中で「希望の物語」だけを聞いていると憂鬱になら にはなく、深い深い絶望の言葉なのではないか。産業が沈みテロが 関発し自殺者が当たり前のようになったこの現実に、絆や愛の物語 は滑稽に映る。救われない物語こそ救いのない時代に必要なのだ。 ミシェル・ウエルベック。私は彼ほど現代社会を写実的に描く人 を知らない。前作『服従』(綴葉二〇一五年一一月号掲載)では、フラ うない。前作『服従』(綴葉二〇一五年一一月号掲載)では、フラ ンス社会におけるイスラームへの魅力と脅威をとりあげ、出版時期 ンス社会におけるイスラームへの魅力と脅威をとりあげ、出版時期 ンス社会におけるイスラームへの魅力と脅威をとりあげ、出版時期 ンス社会におけるイスラームへの魅力と脅威をとりあげ、出版時期 ンス社会におけるイスラームへの魅力と脅威をとりあげ、出版時期 かシャルリーエブド事件と重なったことでセンセーションを巻き起 こした。それから四年、時代を切り取るウエルベックの眼差しは、 再び私たちにもうどうにもならない現実を突きつける。

### 蒸発する人々

を認める社会では家族放棄は犯罪に当たらない。その事実に興奮し話題を知る。フランスでは毎年一万二千人が蒸発し、「移動の自由」と、逃げ出したい彼はあるドキュメンタリー番組で「蒸発者」のといた。冷え切った性生活、どうにもならない仕事(農業食糧していた。冷え切った性生活、どうにもならない仕事(農業食糧主人公、フロラン=クロード・ラブリストは今の生活にうんざり主人公、フロラン=クロード・ラブリストは今の生活にうんざり

たフロランは自身も蒸発者となっていく。

ランは抗鬱剤の副作用で性的不能者となりながら、街を徘徊する。できこんだ。人生をコントロールできる瞬間は何度かあった。しかできこんだ。人生をコントロールできる瞬間は何度かあった。しかての恋人に会い、学生時代の親友に会った。(皆、現実に負けていての恋人に会い、学生時代の親友に会った。(皆、現実に負けてい現実を捨てた彼がやることは、過去を懐かしむ行為だった。かつ現実を捨てた彼がやることは、過去を懐かしむ行為だった。かつ

### 沈没する農業

物語の後ろ側では、欧州統合により没落していく農家たちが描か物語の後ろ側では、欧州統合により没落している。学生時代の親友工年で農業従事者は半分になると言われている)。学生時代の親友工年で農業従事者は半分になると言われている)。学生時代の親友工は貴族の家柄だが、今はその土地を売りながら今日を凌いでいくことしかできない。夢も希望もないエムリックは、農業従事者と連携としかできない。夢も希望もないエムリックは、農業従事者と連携としかできない。夢も希望もないエムリックは、農業だ事者と連携としかできない。夢も希望もないエムリックは、農業だ事者と連携としかできない。夢も希望もないエムリックは、欧州統合により没落していく農家たちが描か物語の後ろ側では、欧州統合により没落していく農家たちが描かっているできない。

(きもの) ぐなら、絶望を映す物語こそ道標となる。 (きもの) であり、終わりを待てない彼らは、明日の事件である。その救いの であり、終わりを待てない彼らは、明日の事件である。その救いの ない物語が、うわ言のような夢に縋り付く時代に必要とされる。安 ない物語が、うわ言のような夢に縋り付く時代に必要とされる。安 ない物語が、うわ言のような夢に縋り付く時代に必要とされる。安 ない物語が、うわ言のような夢に縋り付く時代に必要とされる。安 ない物語が、うわ言のような夢に縋り付く時代に必要とされる。安 ない物語が、うわ言のような夢に縋り付く時代に必要とされる。安 はりまする。

(三)四頁 本体二四〇〇円 9月刊)

# 夜のほどろ 人文学の可能性のために

#### 腐敗と発酵をめ 分解の哲学

## 腐敗と発酵をめぐる思考

青土社



「分解」と聞いて思い起こすのは、たとえば海洋をただよう無数「分解」と聞いて思い起こすのは、たとえば海洋をただよう無数のプラスチックの破片だ。「マイバッグを持参しましょう」「地球環境に優しく」「ストローは禁止!」。そんな善なるかけ声が世界を席捲している。だが、〈人類と自然の調和〉がナチスの標語でもあったとすれば、どうだろう。食や農業にまつわる歴史を研究してきたたとすれば、どうだろう。食や農業にまつわる歴史を研究してきたたとすれば、どうだろう。食や農業にまつわる歴史を研究してきたが生んだ「民族の絶滅」』と題されている。自己欺瞞的な生命至上、大解している。

「分解」や「腐敗」「発酵」の概念は、新品を礼賛し、流行に合わてアーブルが『昆虫記』で「貴い使命を担う」と紹介した糞虫、で、人文学の言葉による思考に確かな土壌を提供した点にある。で、人文学の言葉による思考に確かな土壌を提供した点にある。で、人文学の言葉による思考に確かな土壌を提供した点にある。とい、人文学の言葉による思考に確かな土壌を提供した点にある。で、人文学の言葉による思考に確かな土壌を提供した点にある。で、人文学の言葉による思考に確かな土壌を提供した点にある。で、人文学の言葉による思考に確かな土壌を提供した点にある。ファーブルが『昆虫記』で「貴い使命を担う」と紹介した糞虫、ファーブルが『昆虫記』で「貴い使命を担う」と紹介した糞虫、ファーブルが『昆虫記』で「貴い使命を担う」と紹介した糞虫、ファーブルが『昆虫記』で「貴い使命を担う」と紹介した糞虫、ファーブルが『昆虫記』で「貴い使命を担う」と紹介した糞虫、カードの資本と表して、新品を礼賛し、流行に合わせた。

の分析対象も興味深いが、評者がとりわけ刺激を受けたのは「とくの分析対象も興味深いが、評者がとりわけ刺激を受けたのは「とくめの分析対象もので、人間も登場する。壊れた車を愛するナポリ人、積んでもちろん、人間も登場する。壊れた車を愛するナポリ人、積んでもちろん、人間も登場する。壊れた車を愛するナポリ人、積んでいたカレル・チャペック、江戸・東京の町の屑拾い(バタ屋)。どいたカレル・チャペック、江戸・東京の町の屑拾い(バタ屋)。どいたカレル・チャペック、江戸・東京の町の屑拾い(バタ屋)といたカリカでは、大田の分析対象も興味深いが、評者がとりわけ刺激を受けたのは「とくめつ分析対象も興味深いが、評者がとりわけ刺激を受けたのは「とくめつかった」といい、対している。

、解く・溶く・融く・説く)」という言葉に関する議論だ。

に、多様な生物がこぞって分解作用に勤しむ祝祭の空間である。 をな手触りの中で一体化した分解のモデルがあるように。泥はまさ では、既存の盤石な諸制度を解きほぐした場所に、柔軟な共生 ではで見る。ちょうど、適度な水では固まるが、一定量を超える と土砂として流出する砂場での遊びに、結ぶこととほどくことが適 と土砂として流出する砂場での遊びに、結ぶこととほどくことが適 と土砂として流出する砂場での遊びに、結ぶこととほどくことが適 と土砂として流出する砂場での遊びに、結ぶこととほどくことが適 と大砂として流出する砂場での遊びに、結ぶこととほどくことが適 に、多様な生物がこぞって分解作用に勤しむ祝祭の空間である。

環境問題に処する新しい人文知も蠢き出すはずだ。(投稿・水絵)のもしれない。「分解」の場の一員として世界を見渡してみれば、道をたどる人間の肉体それ自体に備わった、ある根源的な反応なの場」で生産された野菜には違和感を覚える。それは、腐敗と分解の場」で生産された野菜には違和感を覚える。スーパーに並ぶ「無菌工るのを見てふと驚き、どこかホッとする。スーパーに茶色い土があ工事中の道路で、少しの厚みのアスファルトの下に茶色い土があ

(三四五頁 本体二四○○円 7月刊)

### 〈特集〉

う夜になりそうだ。 杯の酒、一冊の本 はどっぷり浸かって。秋月の下、 心。お酒はほどほどに。でも物語に 興でしょう。おっと、宿酔にはご用 まで。本に合わせて酒を選ぶのも 「つまみ」まで。ビールから日本酒 集しました。ハードボイルドから 欲張りだ。でも両方愉しみたい。 り、読書の秋でもある。秋は何とも の組み合わせ――。食欲の秋でもあ むのも良いかもしれない。酒と読書 酒が飲みたくなった。本を片手に飲 そこで今回は「酒」をテーマに特 秋月の美しい或る日の夜。不図、 一。いつもと違

> うした問題は自ずから解決する。しかし、そ なる本を紹介しよう。 識が必要である。今回は、そのため手引きと のためには経験のみでは足りず、科学的な知 なく味わうために酒を飲むようになれば、こ の味など分からないのだから、酔うためでは 険な飲み方をするし、慣れた人でも飲んだ翌 のである。酒を覚えたての人は往々にして危 日後悔することは珍しくない。 泥酔しては酒 酒との付き合い方は誰にとっても難しいも

## 酒の知識を仕入れる

(出席点)

と理解することができるだろう。本書は難し いと思われがちな日本酒について、その製法 見えにくい。そんなときは、『日本酒の科学』 日本酒は製法の種類が多く、なかなか違いが 覚えるが、同一ジャンル内での細かい差異を かな種類ごとの特徴は、一度飲めばおおよそ きだろう。日本酒やウイスキーといった大ま 合わせて、適切な選択ができるようになるべ いうのは論外である。その日の気分や季節に ろから始まる。度数が高ければ何でもよいと (ブルーバックス)を読めばかなりすっきり 賞翫するためには知識が必要である。 例えば 酒を飲むことは、何を飲むかを決めるとこ

## 酒をいかにして飲むか

的なイメージがある 系的な知識を与えて から飲み方まで、 日本酒といえば伝統 くれる一冊である。 体



が、実は最先端の科学技術の結晶であり、細 参考になること請け合いである。 スキーの科学」や「ワインの科学」といった っている。他にもブルーバックスでは「ウイ かい工夫が多数なされている。こうした点に ついて、酒席で披露したくなる知識も多数載 本が刊行されており、どれも非常に興味深く

## 酒のつまみを考える

日本酒と塩辛の組み合わせは酒好きにはたま である。本書では、味覚の科学の観点から、 とつまみの科学』(サイエンス・アイ新書) できるのだ。こうした酒とつまみの「マリア 様々な酒と料理の相性が検証される。例えば 直結する。最良の酒であっても最悪のつまみ あり、その良し悪しは経験自体の良し悪しに ―ジュ」を考える際、非常に役立つのが『酒 いつまみがあれば安酒でもそれなりに贅沢が の欠点を打ち消すことはできない。逆に、よ 酒を飲む際に欠かせないのが「つまみ」で

こうした「定番」 分レベルで理解す が、その理由を成 ることができる。



多数掲載されているため、見ているだけで洒 れる。また、酒についての知識はもちろん、 といった、ちょっと意外な合わせ方も提案さ が欲しくなるかもしれない。 る。さらにフルカラーで料理や食材の写真が ため、料理が好きなら一層楽しめるはずであ の組み合わせのみならず、ビールにかまぼこ 食材の特性についても深く知ることが出来る

### 翌日のために

それでは飲み方を身に着ける前に死んでもお 自身の分解能力を見積もっておくことが肝心 が体内でどのように分解されるのかを熟知し、 が必要だろう。そのためにはまずアルコール かしくない。シラフのうちに適量を知ること 失敗を通じて適量を学べ、という話もあるが 心をもつことなど、酔っ払いには難しすぎる。 ならない。とはいえ、飲みすぎないよう自制 間違っても記憶が飛ぶような飲み方をしては 酔いは失敗にカウントされるべきであるし、 も重要なのは飲みすぎないことである。二日 法について紹介してきたが、飲酒において最 さて、ここまで酒を美味しく飲むための方

> 当の酒量であり、おおよそ日本酒 という考え方だ。これは純アルコール20g相 きるが、その詳細を知りたい場合はまず薬物 のアルコールの動きを考察することで理解で されると言われており、翌日に残らないのは アルコール一単位はおよそ四時間程度で分解 ル500mくらいである。個人差はあるが、 である。この際有用なのがアルコールの単位 一単位が限度だろう。こうした計算は体内で 一合、ビー

> > ンパクトで読みやすい入門書である 例えば、『薬物動態のイロハ』(南山堂) 動態に関する本を一読することをお勧めする。

#### おわりに

なく判断してほしい。 る必要がある。ぜひ、他の人に合わせること があるため、酒との付き合い方は自分で考え 色々と述べてきたが、酒の強さには個人差

## 酒と男とハードボイルド

の世界から招こう。彼らには酒が似合う。 まうような、ハードボイルドな男たちを漫画 ができるか? 性別を超え、思わず惚れてし しない、清潔な男性が現代のイイ男なのかも 遅れだろう。飲まない、吸わない、女遊びを が進む現代において、このような言葉は時代 しれない。だが清潔なだけの男に惚れること イイ男には酒が似合う― -。 若者の酒離れ

## 洒落た男には洒落た酒を

な肉体、二枚目の整った顔立ちが北条司の肉 八六センチの高身長、引き締まったしなやか 屋であり、他を寄せ付けない腕前を持つ。一 ティハンター』(集英社文庫)はプロの始末 舞台は八〇年代の新宿。冴羽獠、通称『シ

> 戦いになれば正確無比にマグナムを敵へと叩 仕事を依頼したいなら、今はなき新宿東口駅 ある。だが決して女性に無粋なことはせず、 クターはコミカルで大酒飲み、さらには「も 前な外見になっている。しかし、そのキャラ 感的な劇画タッチで描かれ、誰から見ても男 っこり」に象徴されるような無類の女好きで 則掲示板に「XYZ」と書けばよい。 思わず男も惚れてしまうような獠に



## 強い男には強い酒を

シリーズだ。ここで取り上げるのは喧嘩師・ プラー刃牙』(少年チャンピオンコミックス) しさ」の極致のような花山が愛飲するのは、 の際にも一切の防御行動を取らない。「男ら 女々しい」と考え一切の鍛錬を放棄し、戦い 力を持つ。「強くなるために努力することは 五百円硬貨を指で捻じ曲げてしまうほどの握 長一九〇センチという恵まれた体格に加え、 り、素手喧嘩(ステゴロ)に美学を持つ。身 花山薫だ。花山は一五歳の暴力団の組長であ るだろう。ただひたすら「地上最強」を目指 ハードボイルドの代名詞、バーボンだ。 して男たちが戦い続ける格闘漫画が『グラッ 男たる者、一度は強い男に憧れたことがあ

> たハードボイルド小説にも欠かせない無骨な けない」花山にはバーボン以外ありえない。 力強い銘柄を好む。「強くなければ生きてい ーという、バーボンの中でも特にコク深く、 酒である。その中でも花山はワイルドターキ レイモンド・チャンドラーや大藪春彦といっ の西部開拓と共に広がっていった酒であり、

## 傾奇いた漢には一杯の酒を

た者たちのことであ ろう。男が惚れる男を描かせれば右に出るも 背くような行為をし 常識や権力・秩序に 前期にかけて流行した、 である。「傾奇者」とは、戦国末期から江戸 のはいないであろう漫画家、原哲夫の漫画に 人公は前田慶次。戦国を代表する「傾奇者 『**花の慶次**』(トクマコミックス)がある。 主 最後はイイ男のイイ飲み方を紹介して終わ 無法者として非



舞いが「傾奇く」ということなのか、最も痛 いは賞賛の対象にもなった。どのような振る 難されつつも、その伊達っぷり、粋な振る舞 攻めが終わり、慶次は伊達政宗や後藤又兵衛 快に描いたシーンが『花の慶次』にはある。 豊臣秀吉の天下統一の総仕上げである北条

らと共に温泉に浸かり、酒を酌み交わしてい

えない。思わず周囲が痺れてしまうような、 笑い、「百万石の酒ぞ」と酒を注ぐ。権力に まいか」と返す。周囲が緊迫する中、秀吉は に仕えないかと誘う。慶次は「人は日に、米 なく、強い酒でもなく、どう飲むか、なのか 粋な振る舞いをしなければならないのだ。 頭を垂れないだけではまだまだ傾奇者とは言 秀吉に差し出し、「そんなことより一献くれ は三合、畳は一畳あれば十分」と答え、盃を た。そこに秀吉が現れ、慶次を百万石で自分 本当にイイ男に必要なのは、洒落た酒でも

### 酔の夢

るだろうかー たとき、僕らの上には、どんな風が吹いてい いつものビールを。若さという酔いから醒め 今夜も、いつものバーで。いつもの席で、 一。『風の歌を聴け』(講談社文

いた。ウイスキーの中でも強い個性を持ち、

バーボン郡で生まれたことから、この名がつ イスキーであり、アメリカのケンタッキー州

バーボンはとうもろこしを主原料にしたウ

華やかで厚みのある風味が特徴だ。アメリカ

に、セピア色の風が吹く。

てのポテトフライ、鳴り止まぬジュークボッ 一九七〇年の夏、海辺の町に帰省した 友人の〈鼠〉とバーで飲み耽る。できた

……。そこにある ピーナッツの皮 退屈な日常だ。〈僕〉 のは、何でもない



との交流を通して、〈僕〉は昔付き合った三 性と知り合う。指が九本しかない女性。彼女 はバーで介抱したことをきっかけに、ある女 い出すことができないのだった。 思い出そうとしても、彼女たちの顔を全く思 人の女性に想いを馳せる。しかし、どれだけ

ーで。いつもの席で、いつものビールを――。 い宴が、永遠には続かないように。 しかし、その日々は永遠には続かない。楽し 打ち明けようとしない。今夜も、いつものバ ある女性に悩まされるが、胸の内をなかなか 共にするようになる。時を同じく、〈鼠〉は いつしか〈僕〉と指が九本の女性は日々を

う。この風が吹き終わるまで。 う少しだけ。もう少しだけ、酔いしれていよ 過ちを恨む日が来るかもしれない。でも、も 京へ帰っていく。宿酔のごとく、若さゆえの そして〈僕〉は指が九本の女性と別れ、東

で、瓶に閉じ込めよう。『たんぽぽのお酒』 てしまう。ならばこの一瞬をお酒に漬け込ん 永遠にも思える夏の日も、いつかは終わっ

> し味にして――。 しさと切なさを隠 できている。懐か (晶文社)は、



くこの言葉を口にすると舌に夏の味がする。 地下室で〈たんぽぽのお酒〉を作り始める。 に夏がやって来た。彼はおじさんと一緒に、 メリカに住む一二歳の男の子、ダグラス。彼 季節は六月。ア

そのものだった。 ダグラスにとって、〈たんぽぽのお酒〉は夏 不気味なタロットカード、町の物知りおじ

ルディングも、いつか……きっと!> も生き続けられるような人が、死ぬことがあ 親族が死んだ。彼は悟る。〈また人々が殺害 さん、珍しい味のアイスクリーム……。一二 ならば……それならば……ダグラス・スポー るものならば……もしこれが全部真実である されたり、大おばちゃんのような、いつまで 歌する。しかし、夏の間に、友人は引っ越し ように外を駆け回り、永遠とも思える夏を謳 歳の世界は発見が一杯だ。ダグラスは毎日の

たんぽぽのお酒に一 でも大丈夫。夏の思い出は、地下室の瓶の中 に詰めてあるから。あの真夏の太陽のような 夏は終わった。当然のように。しかし突然に。 多くを学び、多くを失い、そして一二歳の

最後に、漢詩をひとつ。

知らず 瀟湘の江北 洞庭の湖西 船に満ちて白紵を歌う 早露の秋衣に入るを 早鴻飛ぶ 秋月輝き

こよなく愛し、酒に酔った折、水面に映る月 ている。彼は酒を 学史上に輝き続け の光は今も中国文 界に忽然と現れ、そ

李白は盛唐の詩

(『李白詩選』 岩波文庫



そうだとしても。そうだとしても、彼らはま た酒を酌み交わし、衣を露に濡らすのだろう。 渺茫とした湖と、静謐な秋月だけ。たとえ、 降り、家路につくだろう。あとに残るのは、 秋の露に濡れている。もう秋なのだ。 づいていない。彼らは、まだ夏の心持ちなの ている。先の詩では、酔客は船の上で宴を楽 を捉えようとして溺死したという伝説も残っ かもしれない。しかし、その衣はしっとりと しむも、その衣が秋露に濡れていることに気 どんな宴も、いつかは終わる。酔客は船を

(出席点)

酔の夢をみるために。

葉

### ぼくはイエローで 新刊コーナー

#### ホワイトで、ちょうとブルー ブレイディみかこ著 新潮社

いい。「子育てエ らば本書を読むと の中で捉えたいな 自由が生まれた風 自由の問題を、



う社会の良さとしんどさが宿っている。 ッセイ」で描かれる本書の中に、多様性を謳

が驚くほどの成長を遂げていく。 打って変わり、緊張と対立のある中学校の由 を選択する。牧歌的に多様性を謳う小学校と ることになった息子、ケン・ブレイディにつ ディみかこがこの度描くのは中学校に入学す で、格差や差別を経験しながらも息子は著者 息子は、あろうことか進学先に「元」底辺校 いて。小学校をカトリックの名門校に通った イギリス在住の作家・保育士であるブレイ

シティズンシップ教育やセクシャルエデュケ 験する日本社会の閉鎖性。軽やかな文体で描 ーションの受け取られ方、さらに旅行先で経 普段知ることのできないイギリス社会の闇

> ほど面白いが、内容も深い。差別意識を持つ 学校社会の日々で丹念に描かれる。 くなるほどだ。リベラルの持つしんどさが、 中で悩む息子の葛藤は、思わずメモを取りた 同級生との接し方や、格差社会が産む隔絶の かれるエッセイは思わず笑みや涙がこぼれる

う言葉を使う著者。その言葉は息子だけでな はきっとこの本を、いつか読むだろう息子へ く、我々の背中も押してくれる。 ながらも「未来は君らの手の中にある」とい 日本語が読めない)。共に苦悩し時に潰され の手紙としても書いたのだろう(息子はまだ そして気づく母から息子への眼差し。著者 (二五四頁 本体一三五〇円 (きもの 6月刊

#### クオリティランド マルク=ウヴェ・クリング著 河出書房新社 森内薫訳

すすめ」。動画サ 販サイト……。 イトやSNS、 涌 なぜこんなもの あなたへのお



でもAIは知っている。あなたがそれを、望 言っていないのに)」と思うかもしれない。 を?」「なぜ知っているのだろう? (誰にも

んでいると。

任せだ。「機械は過ちを犯さない」のだから。 が「あなたへのおすすめ」を届けに来る。恋 だ。自分が欲しいと思う「前」に、ドローン をAIとアルゴリズムが管理する格付け社会 っている」――。「三つの危機」を乗り越えた 新国家、〈クオリティランド〉。全国民の欲望 へ候補も、デートの場所も、すべてAIにお 「あなたが望んでいるものを、われわれは知

会社のCEOの居場所をついに突き止めて……。 ー」……。人間も機械も巻き込みながら、 に抵抗するテロリスト集団「マシン・ブレーカ 判断したというのだ。アンドロイドの大統領 たない。彼がその商品を望んでいるとAIが に通販会社に連絡するが、会社は聞く耳を持 は社会への反乱を企てる。そして、彼は通販 候補、電子詩人カリオペ7・3、機械の支配 まない商品が届けられた。彼は返品するため 我々はいつのまにか「おすすめ」以外を選 社会最下層のペーターのもとに、ある日望

高めるのかもしれない。 由に選べる」という平等性が、人生の質を に選ばせるな。自分で選ぶ機会を作れ。「自 るという。でも私は欲しくない」-ぶ。「システムは、私がこれを欲しがってい べなくなっていないだろうか。ペーターは叫 (四二六頁 本体二九〇〇円 8月刊

## 端的に言って、

急に具合が悪くなる

宮野真生子、磯野真穂著

晶文社

ションにしては鬼 すぎるし、フィク 実話にしては劇的 この本は異様だ。



軌跡がたしかにこの本に灼きついている。 を紡ぎ、もう一人はその思索に全力で伴走し た。片方が亡くなっても、二人の駆け抜けた 気迫りすぎている。――一人は命がけで言葉

すうち、宮野の具合は本当に悪くなっていく。 野真穂の二〇通の往復書簡から成る。ガンを きたいと望む。それを受け磯野は、関係を築 惑い試行錯誤しながら磯野と関係を作ってい ュアル的に慮ると、会話は硬直してしまう 者の懸隔は大きい。どう接すればいいかマニ 思ったのが始まりだった。しかし書簡を交わ 患う宮野が、病について磯野と議論したいと て一方的にケアされるのではなく、互いに戸 日々死に向きあう者とそうではない者、両 本書は哲学者・宮野真生子と人類学者・磯 宮野は「一〇〇パーセントの患者」とし と磯野はストレートに危機感を投げかけ

> 我が事として考えざるをえない。 身は他者とどんな関係を築いていこうか―― 二人の確かな「踏み跡」を見た今、わたし自 逢ってしまった二人によって繰り広げられる。 とのエッセンスが、宮野の死期が迫るなか出 葉が熱を帯びてゆく。人と出逢い関係するこ は二人の関係そのものへとテーマが移り、言 を踏み出してゆく」ことだと考える。 最後に 見つけ出し、それを踏み跡として、次の一歩 中で、互いにとって心地よい言葉や身振りを くとは、「共に世界を通り抜け、その動きの 読後、この本を、だれかに薦めたくなった。 (二五六頁 本体一六〇〇円 9月刊 (ミセ

#### 方形の円 (偽説·都市生成論) 住谷春也訳 ギョルゲ・ササルマン著 東京創元社

に。こんな説明を で碁盤の目のよう 差している、まる は通りが直角に交 京都の街の中心



イメージが浮かんでくる。旅行記を読む時に 様子、暮らしぶり。それを言葉にすることで よく耳にする。街の特徴と、そこに住む人の

> の案内書だ。 現実ではないかもしれない。本書は架空の街 近い。さて、そんな街に出会うのは必ずしも

代ギリシャ人、「グノッソス」ではギリシャ る。そうかと思えば「オリュンピア」では古 を循環させるパイプシステム」が備わってい 幻想都市をそぞろ歩き出来るわけだ。 入っていくようだ。文章を辿りながら読者は 気を変える。まるで大通りの脇にある路地へ 合わせて街も人もそれまでとはがらりと雰囲 まで幅広いコンテクストを織り交ぜて都市と 神話に題材を取って話が進む。古典からSF れ、「ヴァーティシティ」では「放物面鏡の 病原体を殺すステロバック処置」等が整備さ 時間間隔で温度・湿度を調整するシステム、 太陽エネルギー発電施設」や「水とミネラル (の有り様が語られる。 時には視点の移動に 近未来的な「プロトポリス」では「最適な

る作品である。 見聞録を題材にしたこの書物と本書には共涌 い都市』が著されている。マルコ・ポーロの グ感も漂うが、故に懐かしさと新鮮さを覚え た作品がこの時代、一九七〇年代には多産だ ったのだろうか。今読むとどことなくアナロ 点もある。未知への憧れを想像によって彩っ 同時代にイタロ・カルヴィーノの『見えな ねこ

○二八頁

本体二二〇〇円

## か? 生命の歴史は繰り返すの

このような取り組みを豊富なエピソードと具

#### Jonathan B.Losos著 的場知之訳 化学同人

える人は多くない。 として受け入れら とも日本では常識 れており、異を唱 進化論は少なく



すぎるように思われる。 当てはまるのだろうか。生物の進化は偶然に 支配されており、また実験には時間がかかり 験で検証するという、科学の方法論にうまく しかし、よく考えてみると、これは予測を実

葉

するという研究が可能なのである。本書では 似たような姿かたちの生物が独立に、繰り返 ばならないが、その方法は限られているため、 象である。生物は環境にうまく適応しなけれ だ。ここでカギとなるのは収斂進化という現 は、進化の方向性はある程度予想できるし、 起きる現象であるため、予想を実験的に検証 し出現する。さらに、進化は実はかなり早く しかもそれを実験で確かめることも可能なの 見方を変えてくれること請け合いである。実 を交えて紹介する本書は、こうした進化論の 進化の実験的な研究について、最新の成果

> ろうか、といった議論は興味深い。 生命体の姿に関する考察にまで話は及ぶ。そ のか、特に「人類」は必然的に出現するのだ うした「生き物」はどの程度見慣れたものな の生命のみに限るものではないから、地球外 常に面白い。また、収斂進化の概念は地球上 き物はどれも個性的であり、読み物として非 体例とともに紹介する。登場する研究者や牛

くても楽しめるはずだ。 ある。生物が好きな人はもちろん、そうでな かなり厚めではあるが、読みやすい一冊で 6 月刊 一蕨餅

(四〇〇頁 本体二八〇〇円

#### 育てる Aーに負けない子どもを 東洋経済新報社新井紀子著

あなたは日本



当にそうだろうか? ろう。しかし、本 イエスと答えるだ か?」多くの人が 語が読めています

のように、用語だけに注目して読む人がいる。 一徳川家光/参勤交代/江戸幕府/基礎

試してみるのも一興だろう。

(三二八頁 本体一六○○円

9月刊

るものだろうか。それともAI以下だろうか。

という著者の指摘は正鵠を射ているだろう。 -と同じように)暗記に走らざるを得ない\_ ことはできないからだ。「入試は読解力を求め れらの用語を無限に(かつ正確に)記憶する 界がある。なぜなら、我々はAIと違い、こ だろう。)しかしこの暗記偏重の勉強法には限 する。(歴史の一問一答テストがそれに当たる 読解力のない人間は、文脈を無視して、用語 み方では教科書の読解は難しいと言っている。 ているのに、読解力が不足している人は(A の情報のみに頼ることで「わかった」ふりを 著者はこれを「AI読み」と名付け、この読

ない可能性を著者は示唆している。そして著 いうことだ。このことから、そもそも文章を られた。それは、高校生に関して、RSTの 力の調査を行った。すると興味深い結果が得 らビジネスマンまで、一八万人を対象に読解 る。あなたの読解力は、今後の社会に通用す は、今後のAI社会で淘汰されてしまうと― 者は喝破する。このような「読めない」人間 正答率と高校の偏差値がきれいに相関すると 一読めない」せいで、テストの問題が解けてい 本書には体験版のRSTの問題がついてい 著者はRSTなるものを開発し、小学生か

#### 葉

## ひらく精神医療 オープンダイアローグが

#### 日本評論社 斎藤環著

ことを繰り返す。 れに対して答える から質問され、そ ほどの密室。相手 白っぽい、6畳



それをまとめた書籍である。 視するオープンダイアローグへの転向を宣言 し、エッセイや論文を執筆してきた。本書は 神療法が主流であるが、筆者は「対話」を重 現在の精神医療はこのような一対一の個人精

げる。次に、患者の面前で専門家たちが話し システム・思想であり、最近は統合失調症を を交換し、その過程でその答えを見出してい 合い、患者の評価と治療計画についての意見 を行い、患者の訴えを否定せず、話を掘り下 人らを交えて車座となり、「開かれた対話 ライアントの自宅を訪問し、本人や家族、友 ら依頼を受けると、治療チームを結成し、ク されている。治療スタッフはクライアントか 薬物や入院を用いずに回復させることで注目 まれた。精神病に対する治療的介入の手法 オープンダイアローグはフィンランドで生

> くし、患者と医師の権力構造や「転移」の問 とすることで、従来の精神医療の密室性を無 く。治療対象を家族、友人や知人にまで拡張 題が解決されると筆者は論じる。 「一対一」ではなく「多対多」で解決しよう し、ネットワークを治療チームで、つまり

記載されており、ケアにとどまらないオープ ンダイアローグの可能性が見えてくる。「誰 の書評、現象学者の村上靖彦との対談なども かと分かり合いたい」と願う人に読んで欲し 本書ではその実践や理論背景に加え、 石透

(二七二頁 本体二〇〇〇円 7 月 刊

#### 海老名彈正 クリスチャン・サムライ 人になれ人、人になせ人

岡一成著

教文館

社の第八代総長、 海老名彈正。本書 思想家にして同志 表するキリスト教 熊本バンドを代



れる好個の評伝である。しかし、海老名の活 ト教受容、その信仰・神学的思想の発展を辿 は小著ながら、海老名の生涯におけるキリス

及がないため、類書にあたる必要がある。 となる彼の戦争論や朝鮮伝道論については論 発な社会的発言について、特にしばしば問題

ジェーンズによる感化と武士道・儒教の伝統、 汲み、自身の神学を確立していく背景として 仰・神学は著しく自由主義的な傾向を帯びた 牧師として活動を続けるうちに海老名の信 のもとで正統主義的な教理学を身につけるが、 が窺える。同志社英学校に進み、ディヴィス には儒教の「天」の概念が媒介となったこと とっての君として神を信じるに至るが、それ 学し、ジェーンズのもとで聖書を学び、臣に 名にとって、明治維新は一命を捧げて仕える 述が本書の読みどころだろう。 独特の回心体験などが位置づけられていく叙 的キリスト教や当時のリベラル神学の流れを ものへと結実していく。海老名がヘレニズム べき主君の喪失を意味した。熊本洋学校に入 一八五六年に柳河藩の武家に生まれた海老

なり、海老名は同志社総長として日本の私大 初の共学を実現させることになる。 た女子の一人、横井美屋は後に海老名の妻と 海老名がジェーンズに抗議すると逆にジェー 学化し、女子が同席するようになった際に、 ンズにたしなめられたという逸話だ。同席し 評者の関心を引いたのは、熊本洋学校が共 (一六八頁 本体一〇〇〇円 5月刊

#### 長南政義著 作品社

物までの読書に偏 究書から俗流戦記 筆者は日露戦の研



争百周年を迎えた

思春期に日露戦

## 児玉源太郎

思い起こすのに充分だった。 わからないが、本書『児玉源太郎』は青春を 執を傾けた。あの情熱の出処は今となっては 政軍をまたにかけた日露戦の英雄の評伝は

指揮能力評価や沙河・奉天などでの児玉率い 評価の潮流のきっちりしたフォロー)は作戦 る満州軍総司令部のミス(そして乃木希典再 描写にこそ発揮される。満州軍各軍の冷徹な にも紙幅を割きつつ、本書の真価は作戦史の 事史家であることに特徴があるからだ。 る小林の評伝と比べ本書は著者長南政義が軍 なり趣を異にする。というのも政治史家であ 一二年刊)がなお記憶に新しいが、本書はか 小林道彦によるミネルヴァ日本評伝選(二〇 台湾総督期の再評価や軍政家としての手腕

> れた児玉の持った力量と限界を叙述しきる原 ればこそ、政治家としての児玉評価にも新局 動力となっている。 であるはずの山県有朋にさえ「杖」と追憶さ 反政党主義者だった思想的位相の分析は政敵 面が開かれる。立憲的政治家でありつつも、

その先の標となる一冊。 と挿話を与えてくれよう。『坂の上の雲』の 性」の描写はポスト明治一五○年に新たな夢 者の言を借りれば、「明治史の失われた可能 たようだけれど(二九五頁参照)それでも著 どうやら「そこから旅順港は見え」なかっ (四二七頁 本体三四〇〇円 (投稿・とうこ) 6月刊

## 綴葉編集委員募集および 投稿募集のお知らせ

り上げた書籍の代金が支給されます。 集委員には毎月若干の活動手当と、書評で取 て『綴葉』の編集作業に携わることです。編 に若干名募集します。 仕事内容は、毎月二~三本の書評を書くこ 『綴葉』編集委員会では、 毎週金曜日に行われる編集会議に出席し 編集委員を新た

の児玉源太郎像を析出させる。その描写があ の神様的描写とは違う限界ある作戦家として

対象は、京都大学生協加入者で大学院の修

けます。宛先は本誌表紙を参照して下さい。

代(上限二五〇〇円)および薄謝を図書カー けています。採用させて頂いた方には、書籍 集委員会への参加希望の旨を明記の上、生協 記の仕事を継続して行うことが出来る方です。 士課程ないし医学部の五回生以上、そして右 下さい。追ってご連絡差し上げます。 紙記載のメールアドレスへ 直接お問い合わせ のひとことポストに投函するか、『綴葉』表 希望される方は、本誌添付の読者カードに編 この条件を満たし編集委員としての活動を また、読者の皆様からの投稿も随時受け付

ドにて差し上げます。ふるってご投稿下さい。 ください。 なお紙面の都合上、原稿を頂いても掲載でき ない可能性がございます。悪しからずご了承

れてから四か月以内の書籍を対象とします。 ら四か月以内の書籍を対象とします。 二行、新書二〇字×二三行。出版されてか ら変更がありますので、ご注意ください。 して下さい。郵便・メールどちらでも受け付 者の氏名・所属・連絡先・ペンネームを明記 名・総ページ数・発行年月・本体価格と投稿 ②「話題の本棚」:三〇字×四二行。 出版さ ①「新刊/新書コーナー」: 新刊二〇字×三 いずれの場合も、書名・著者名・出版社 書評の形式は次の通りです。従来の規定か (一九三頁

本体九二〇円

7 月刊

(三三六頁 本体一○○○円 7月刊

## トニ・モリスン箸 森本あんり解説 売らのみ訳 集英社新書ノーベル賞作家のハーバード連続講演録「他者」の起源

とは、無縁ではありえないのだ。 たいし、モリスンは自身の小説『パラダイ わりに恐怖に近い忌避感を示すフォークナー。 ジが取り上げられている。異人種との性的交 もしれない。しかし他者を恐れ美化する心性 種がわかったからといって、その人物につい ないようにしたと解説する。「登場人物の人 て白人みずからの手で、他者としての「黒 ない、無害化された黒人が描かれる。こうし ムの小屋』では、白人に危害を及ぼす危険の ミングウェイ。ストウ夫人の『アンクル・ト 黒い肌のエロティシズムを殊更に強調するへ の多くでアメリカ文学における黒人のイメー 数々の作品を生み出してきた。 る彼女はこれまで、人種の問題を題材とした ニ・モリスン。アフリカン・アメリカンであ てどれほどのことがわかるというのか?」 ス』などで、登場人物の人種を意図的に描か 人」 が作られる。 こうした肌の色への執着に 本書には六つの講演が収録されており、そ 今年八月に亡くなったノーベル賞作家ト 人種の問題を日本で感じることは少ないか (St

## 中公新書 佐々木健一著 佐々木健一著

「美学」という言葉に対して、あなたはど

『美学への招待増補版』である。 たい一冊である。 ポーツの領域でも用いられる「センス」が、 味しているのだろうか。それは、知性によっ ろにも潜んでいることを説いたのが、本書 堅い、また何かと縁遠いものと思われがちな 年の議論を概観してみたい方にもオススメし 傾向も反映されている。現在進行形で進む近 五年の間に現れはじめた、美学内部の新しい ら、この問題について考察をさらに進めてゆく。 ある種のメタファーであることを指摘しなが の問題として立ち現れてくる。本書では、ス で、感性学(aesthetics)を語義にもつ、美学 感覚や感性のことなのだろうか。問題はここ て得られるものなのだろうか、あるいはただ は「センス」という言葉によって一体何を意 る「センス」について考えてみよう。私たち のような印象を抱くだろうか。どことなくお 「美学」の問題が、実は私たちの身近なとこ また、今回の増補版には、初版発行から一 たとえば、今や日常語の一つにもなってい 投稿·松風

## 杉本隆司訳 白水社文庫クセジュピエール・ミュッソ著サン=シモンとサン=シモン主義

表記主義、社会主義、社会学、そして何よ を国的な思想家サン=シモン。本書は彼の生 を国的な思想家サン=シモン。本書は彼の生 のサン=シモン学派、各々の源流に位置する はと実践をたどる概説書だ。

サン=シモンは軍人、エンジニア、実業家 と経歴を積んだ後に学問研究に打ち込んでい く。まずは哲学的認識論を確立すると、それ を応用して独自の政治経済学を構築する。た を応用して独自の政治経済学を構築する。た を応用して独自の政治経済学を構築する。た を成用して独自の政治経済学を構築する。た を規実にもたらすべく深化する彼の思索は、 を現実にもたらすべく深化する彼の思索は、 を現実にもたらすべく深化する。 を現実にもたらすべく深化する。 を現実にもたらすべく深化する。 を現実にもたらすべく深化する。 を現実にもたらすべく深化する。 を現実にもたらすべく深化する。 とるない。 とない。 とな

8月刊)

(一七〇頁 本体一二〇〇円

## 言葉と人と 池内紀

うべき『ヒトラーの時代』がドイツ史研究者たちから酷評されて間 今改めて彼の著作を読んでふと懐かしさに浸る。 もない死の知らせにいつも以上に悲しみをおぼえてからひと月ほど。 ドイツ文学者の池内紀氏が亡くなったと報じられた。遺著ともい

る主人公の心理が訳者の蠱惑的な言葉使いによって際立って迫って ニバリズムにも通じるテーマと人間嫌いでありながら人間に惹かれ りを調合する。殺人者が主人公として描かれることも驚きだが、カ られた主人公グルヌイユは超人的な嗅覚を持ち、人を殺してその香 しの物語』(文春文庫)ではなかろうか。生まれ落ちてすぐに捨て るであろう翻訳がパトリック・ジュースキントの『香水 紹介者でもある。それらの中でおそらく最も人々の印象に残ってい 氏だが、それ以外にもミヒャエル・エンデやシュニッツラーなどの 関わるものだ。文学的業績としてはカフカ著作集の翻訳で知られる 故人の肩書きは文学者、翻訳家、エッセイスト、いずれも言葉に ある人殺

較をしつつ、原文に忠実であるべきか 日本語』(中公文庫)の中である。シェークスピアの日本語訳の比 そんな翻訳の作業について氏のこだわりに出会えるのが『翻訳の

いう断絶に言葉を用いてどう架橋するか、そしてそこから何が見え 葉を置き換えるだけではない、異文化と いのたけを述べている。翻訳とはただ言 か、翻訳者に投げられた課題について思 それとも日本語としての格調を取るべき

るのか、翻訳者として必定の懊悩を見せてくれた気がする。



セイには母国・異国の旅情についてのものが多くある。その中で評 今となっては隔世の感がある読み物だ。 集である。離れた時代の文章でもあり、 氏によって編まれた『アルプ』の紀行文 山の雑誌アルプ傑作選』(中公文庫)は た。ウィーンの路上、ドイツの町、日本の街道、温泉地、彼のエッ 者が面白いと思ったのは登山に関するものだ。『ちいさな桃源郷 ただし故人は書物だけの人ではない、旅することにも関心があっ 桃源郷 山の雑誌アルプ保作波

のように過去の中へ消えていく一冊である。 る。鄙びた村に細々と暮らす人々の営みを丁寧に記した文章に触れ れこそ「桃源郷」とでも言わざるを得ない山里の人々の暮らしであ その中に描き出されているのは今ではそ て改めて故きを温ねんとしても、恐らく今は叶わない、まるで幻想

だろうか。 トの息子。何気なく通り過ぎ、忘れられてしまいそうな事物の中に 芸術家、自作の詩を私家版で何刷も作った詩人、そしてモーツァル 風変わりな人々の人生を紹介したものだ。行く先々で自分の名を落 何か煌めきを探したい。そんな故人の思いを想像するのは評者だけ 書きして名を残そうとした役人、表情を誇張した彫像を作り続けた 恵の森文庫)(絶版)は、名を残すことなく歴史から消えていった 『モーツァルトの息子 史実に埋もれた愛すべき人たち』(光文社知 氏はそのような埋もれたものに興味があったのかもしれない。

に今一度敬意を表したい。 砂金を掘るように書物と人と言葉とを探し続けた池内紀氏の営み (ねこ)

## 無宗教から宗教を学ぶ(承前)

続うすることである。 紹介した。しかしそうであれば、そもそも宗教とは何だろうか。 独特の宗教性のものとして理解されることもできる、という言説を 独特の宗教性のものとして理解されることもできる、という言説を なります。

者との信仰的関係といった特定の実質によってよりは、われわれが て各々が自らの精神的土壌を問い直させられる、その問い直しの要 のあり方と出合うことによって、この出合いが要求する深さにおい に考えることもできる。即ち、キリスト教という生の形式が他の牛 教概念は、かように近代キリスト教の特定の形に刻印されている。 が非宗教の公の道とされて全国民に強制された。明治以来の公の宗 入されたことで、諸宗教は「私」の領域に押し込められ、神道だけ 西洋近代における教会の制限された社会的位置までが宗教概念に輸 の力のない民間信仰は近代化を妨げる邪教として禁圧される。挙句 デルとなった。他宗教はキリスト教に対抗すべく教学を形成し、そ 系や卓越した信徒の主体形成力の故に、概ねキリスト教が宗教のモ 生じたキリスト教、仏教、神道の併存状況の中で、それらを一括す 抗の意味も多分にあった、維新政府による強引な神仏分離)により ば、宗教という語は、明治期のキリシタン解禁(およびこれへの対 田幾多郎『善の研究』(岩波文庫)だ。西田は宗教を、例えば超越 況から生まれた宗教という語をまさにこの方向で思考したのが、西 求を、宗教という語で引き受けることが可能である。明治の政治状 期における政治社会的位置を一般化する形でではなく、より根本的 る概念として受容された翻訳語だ。ただその際、洗練された教養体 しかし、宗教概念を別様に、キリスト教の特定の要素、特定の時 磯前順一『近代日本の宗教言説とその系譜』(岩波書店)によれ

初の一歩として必ず参照されるべきものである。し込んで把握しようとする西田の論は、宗教の問いを受け止める最きることに内在する根源的事象としての「生命の要求」にまで落とを展開している。荒削りではあるが、西洋の「宗教」の衝撃を、生を展開している。荒削りではあるが、西洋の「宗教」の衝撃を、生生きる現実(実在)の全体に関わる問題として受け取り直し、議論

き宗教性を捉えたものとして、味読吟味されるべきものである。 き宗教性を捉えたものとして、味読吟味されるべきものである。 例えば上田閑照『私とは何か』(岩波新書)は、宗教と呼ばれ得るという事柄のうちに見定める議論を展開している。上田のテーゼるという事柄のうちに見定める議論を展開している。上田のテーゼの宗教が信頼性を喪失して「私である」(私であるとは「私ならざる開け」「私は、私なくして、私である」(私であるとは「私ならざる開け」「私は、私なくして、私である」(私であるとは「私ならざる開け」「私は、私なくして、味読吟味されるべきものである。 
西田の受け止めた宗教の問いは弟子たちによって更に展開された。 
西田の受け止めた宗教の問いは弟子たちによって更に展開された。

前と同じようには考えられなくなるはずである。 (投稿・犬)前と同じようには考えられなくなるはずである。 (投稿・犬)直すことにつながるということである。このような問い直しはまた、直すことにつながるということである。このような問い直しはまた、直すことにつながるということである。このような問い直しはまた、直すことが、われわれの各人が生きている経験の質そのものを深く問い個者と関わることの――宗教的と言い得るような――ラディカルな他者と関わることの――宗教的と言い得るような――ラディカルな他者と関わることの――宗教的と言い得るような――ラディカルな他者と関わることの一―宗教的と言い得るような問いの声田・上田的な受け止めが示すのは、宗教を考える宗教の問いの西田・上田的な受け止めが示すのは、宗教を考える宗教の問いの西田・上田的な受け止めが示すのは、宗教を考える

#### 編集後記

長く大学にいると色々な別れをする。仲の 良かったあの子は就職して、少し疲れた顔を して遊びに来た。卒業しないまま私はここに 残り、顔を見せたあの子に「おかえり」って 言う。「変わらないね」ってあの子は言う。 私は沈黙で答える。

「何にもなりたくないんだ」とあの子は言 っていた。「何かにならないといけないんだ」 と私たちは知っていた。陽炎のように屈折し た時間は過ぎ去って、現実と向き合うために 険しい顔をしてあの子は旅立っていった。私 はおぼろげな顔のまま立ち止まって、何にも なれない自分を引きずっていた。

「ここにいる時が一番楽しかった」とあの 子は言った。うろこ雲の空から斜陽が射して、 私は返事を飲み込んで遠くを見た。木瓜の花 が咲いていた。あの子の郷愁の世界に、私は まだ住んでいる。同じ風景の中で、同じコー トを着て、でも少しだけ歳をとって。

「またおいで」と私は言った。あの子は落 ち葉のようにクシャっと笑った。葉の色が変 わるように、人間の色も変わり続ける。青い ままではいれないけれど、変わっていく色合 いの世界を、綺麗って思ったの。

#### 当てよう!図書力

来年のオリンピック開催に合わせて「体育 の日」が「スポーツの日」に変わりますが、 現行憲法下で制定された祝日の中で最も古く からあるのは次のうちどれでしょう。

- 1. 体育の日
- 2. 文化の日
- 3. みどりの日
- 4. 海の日

(ねこ)

《応募方法》読者カードに答えを書いて生協 のひとことポストに入れてください(または e-mail:teivo@s-coop.net)。正解者の中から抽 選で5名の方に図書カードを進呈いたします。 締切りは 12月 15日です。

#### 7月号の解答

7月号の「祇園祭の間、食べるのを禁じら れる野菜は? | の答えは1.きゅうりでした。 暑かったあの夏はどこへやら。すっかり秋め いてきましたね。応募者 17 名中 17 名の方が 正解でした。図書カードの当選者は、湖底の 蟹さん、カメラさん、G.A. さん、たんまさん、 とよさん(順不同)です。おめでとうござい ます。 (出席点)

ね うだなと思いました。過ぎ去れば思い出です 生の影響かもしれません。長期休暇に工作や 裁縫がしたくなったり冬には百人一首や書き からん生徒でしたが、 初めをしたくなるのも学校教育の影響? は夏休みの宿題で夏になるたび必ず描いた写 順は侮れませんね。 長期休暇の宿題は苦痛に感じていたけし いまやれば結構楽しそ

防災研·紫苑

いですよね。それこそ絵に対する「衝迫」 ならぬ「タイトル買い」も良いですよね。 ありがとうございます。絵画や写真と向き合 描かれているように思います。 『ブルー・ピリオド』私も好きです。面白 ありがとうございます。「ジャケ買い 「衝迫」という言葉を使っていただき、 (理・は一)

る思い、「衝迫」のようなものが感じられる い、じーっと見ていると、作者の作品に対す

ことがありますよね。

)夏になると絵画関連の本が読みたくなるの

読者からひとこと

した。ぜひ読んでみたいと思います。 ○タイトルから気になる本がたくさんありま

(法・湖底の蟹